



ニガイチゴ（苦莓）バラ科キイチゴ属＊花期＝5～7月

林縁などで見られる落葉低木。茎や枝は粉白色を帯び、水平に出る細い枝には棘がある。
葉は互生、長さ2～8cm幅1.5～4cmで、掌状に3裂する卵状円形ですが、切れ込みは変化が大きい。切れ込みの無いものもある。葉の裏面は白色を帯びる、葉の縁には鋸歯がある。
花は白色で5弁花、径2～2.5cm上向きに普通1個付く。花弁は細く、花弁同士の隙間が目立ちます。萼は内側と縁に白い毛が生える。花柄は長さ1～2.5cmで棘がある。果実は径1cmほどの球形の集合果で赤色に熟す、食べられるが苦味がある。＊名前の由来はこの果実の苦いところからの命名。



クマイチゴ（熊莓）バラ科キイチゴ属＊花期＝5～7月

名前の由来＝熊が潜んでいるような場所のあるイチゴ、
山間部の日当たりの良い林道沿いや荒れた所に生育する。落葉低木で半ツル性、高さは～2m、茎は株立ちして林立するが太く育たない。樹皮は赤味を帯びた濃褐色で硬く毛が無く枝には棘が多い。茎や葉には垂直に出る棘がある、トゲが無い太い徒長枝が立ち上がることもある。

葉は単用で、長さ2～5cm葉柄があり鉤型のトゲがある、葉身は長さ4～10cmの広卵形。又は、卵円形で浅くあるいは中程度でモミジ状に3～5裂する、表面には伏毛があり裏面の葉脈にトゲがある、葉縁には不揃いの鋸歯がある。
花は初夏5～7月頃、冬芽から伸びた新枝の先に直径1.5～2cmほどのノイバラに似た5弁の白い花を2～6個集まって咲く。6～7月頃赤く熟して食べることが出来る。

ナガバモミジイチゴ(長葉紅葉莓)バラ科イチゴ属

北海道～九州に分布、日当たりの良い林縁などの多い。
花期＝6～7月、中部以西関西地域に多く自生しており。葉の形状は3裂しているものない葉。その中間的な葉と変化多い。
関東地方には葉の幅が広い種が多くモミジイチゴという。
6月頃黄色に近い橙色に熟しキイチゴの中では一番おいしい
幹には扁平な鋭い棘がある。花は白色の5弁花

